

No.J2102

プラナカン・インディアンとは誰か

—マレーシアの「三大民族」集団の狭間に生きるマイノリティの人類学的研究

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

柏 美紀

本研究の目的は、プラナカン・インディアンを対象として、同集団の生成過程やその背景、文化的混交の実態、同集団と隣接集団および外部の政治権力等との関係を明らかにすることである。新型コロナウイルスのため、海外調査の代わりに日本で文献調査を実施した。また日本各地での聴取を通してインド系移民と日本人との関係を探った。その際、民族・宗教・来日時期・経済力・言語といった背景が、人々の包摂と排除に及ぼす影響も検討した。また大阪や福岡でインド関連の企画展も訪問し学芸員と意見交換した。

【研究の成果—マレーシア】

①プラナカン・インディアンという集団の生成過程やその背景

オランダの政策下で、現在まで続くプラナカン・インディアンの集住・信仰の拠点が形成された。またイギリス植民地時代に労働移民から差別化することで集団的アイデンティティが形成されたと考えられる。今後は現地で植民地期の文献資料や口述史等を収集し、より詳細な生成過程等を探る。

②集団内の文化的混交の実態

文献調査では十分な情報が得られなかったため、今後の現地調査で明らかにする。

③プラナカン・インディアンと隣接集団および外部の政治権力等との関係

以下の集団との関係を明らかにした。[地区内の「華人」、州政府・国家、地区を離れた人々、プラナカン協会連合、他のプラナカン、マレーシアの「インド人」]

今後は、今回の調査では明らかにできなかった生活世界におけるプラナカン・インディアンと他集団との関係を探る。その際、今回の調査でプラナカン・インディアンに大きな影響を及ぼしたことが判明した、地区内で共存する「華人」、華人系プラナカン、マレーシアの「インド人」を対象を絞る。

【研究の成果—日本】

今回の調査の限りでは、人々の間で包摂と排除が起こる際、宗教や民族、来日時期よりも経済力や言語の差異が重視されることが示唆された。今後は、プラナカン・インディアンの集団形成に経済力や言語が及ぼした影響にも着目したい。

また、移民が排他的集団を形成しているようにみえても、実際の状況やその背景（ホスト社会の態度）も検討する必要性を痛感した。ホスト社会から差別されてきたプラナカン・インディアンを現地で探る際には、実際の状況や彼らが独自集団を築くに至った経緯に注意を払いたい。